

浜の活力再生プラン  
令和 6～10年度  
第 3 期

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	長崎以西底曳地域水産業再生委員会
代表者名	山田 浩一郎（一般社団法人 長崎県以西底曳網漁業協会 代表理事）

再生委員会の構成員	長崎市 長崎魚市株式会社 長崎蒲鉾水産加工業協同組合 一般社団法人長崎県以西底曳網漁業協会
オブザーバー	長崎県

対象となる地域の範囲 及び漁業の種類	長崎県長崎市（一般社団法人長崎県以西底曳網漁業協会） 以西底曳網漁業（2経営体） 所属船舶数 6 隻 （令和 6 年 1 月時点）
-----------------------	---

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

長崎市を主たる漁業根拠地とした以西底曳網漁業では、主に東シナ海において、昭和20年代から30年代の最盛期には約800隻の漁船が従事し、生産額は昭和55年の64,032百万円がピークであった。

東シナ海においては膨大な数の中国底曳網漁船の乱獲により底魚資源の減少が著しく、魚ばなれ等国内消費の減退に伴う魚価の低迷、乗組員不足に加え、ウクライナ情勢、中東情勢、円安等による燃油や漁業資材の高騰によるコスト高、東京電力福島第一原子力発電所のアルプス処理水海洋放出に伴う中国の日本産製品に対する対応等、外的要因も相まって厳しい経営状況が続いている。

現在では2経営体（2そうびき3組<6隻>）が、総漁獲量の4割を占めるキダイをはじめ、アカムツ、マダイ、カイワリ、イカ類等を対象として操業し、令和4年1月から12月の新長崎漁港における年間水揚量は3,073トン、水揚額は約10億7千9百万円となっている。

以西底曳網漁業の収益性の改善を推進するため、平成25年度から平成28年度までの間、高船齢船のリニューアルを実施した。

また、平成28年5月には改革計画の認定を受け、収益性の回復を図るため、新たな省エネ漁具の導入及び船底に対するサンドブラスト施工等による燃油消費量の削減に取り組むとともに、大規模な船体・漁撈機器の再生工事を行うことによる保守管理費の削減等に取り組む、併せて、主要水揚魚種であるキダイを対象とした製品規格の見直しと選別強化及び、長崎県、長崎市、地元流通業者等との連携による販路開拓による販売単価の向上に取り組んだ。

令和4年5月には、乗組員不足のため1組（2隻）を停船せざるを得なくなり、令和4年8月からは3組（6隻）体制となったものの、漁場競合の緩和、荷揚げの分散化に取り組みやすくなったこと等により、漁獲量は前年の4組体制時とほぼ同量となり、単価も上昇した。

なお、所属船の船齢が31年～32年と老朽化し、更新の時期を迎えているものの、船価の高騰等により、新船建造が非常に厳しい状況下において、再リニューアル等漁船の整備対応が喫緊の課題である。

(2) その他の関連する現状等

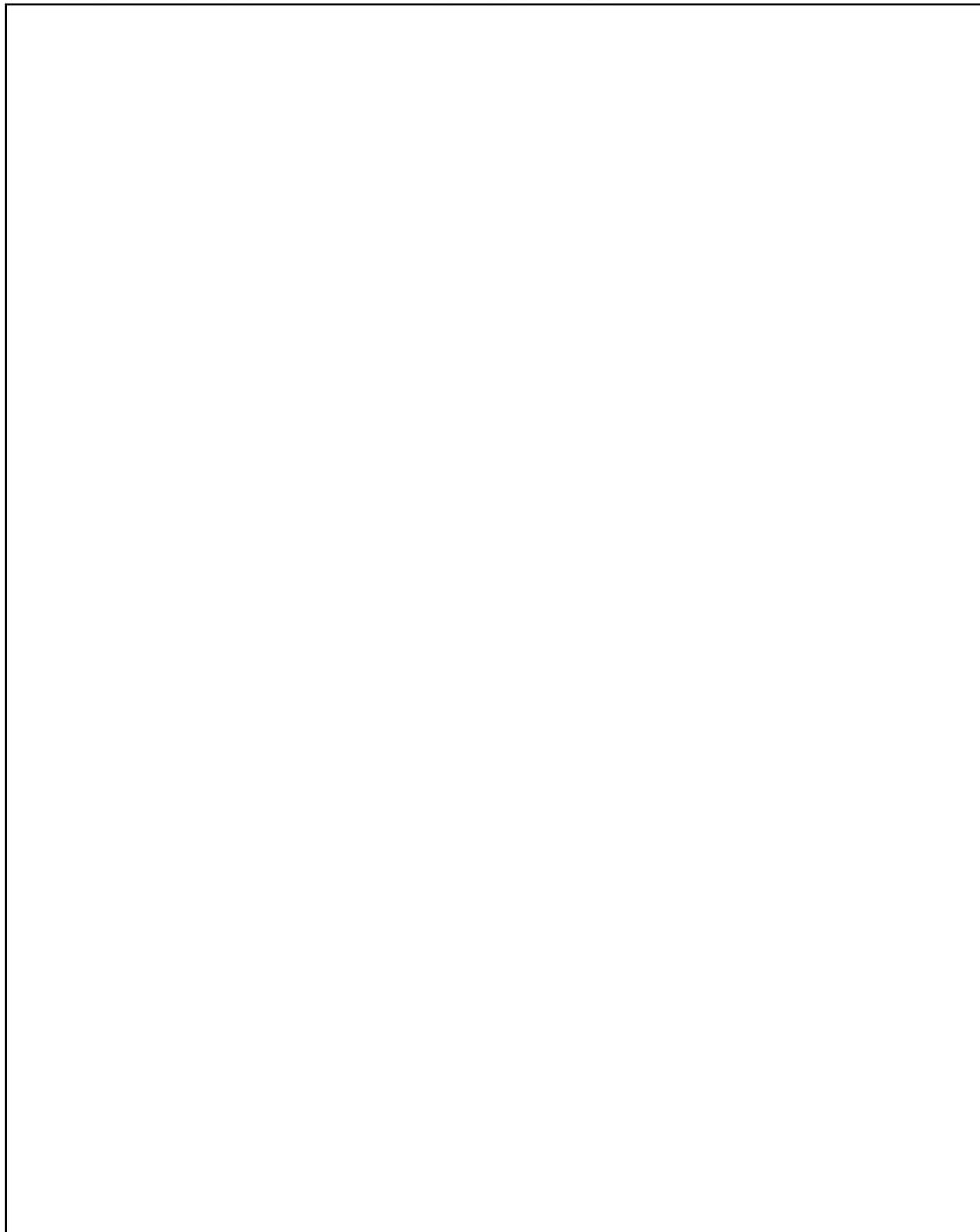
長崎市は海と山に囲まれた人口約39万人の坂のまちで、中心部は斜面市街地とあいまって、独特の都市景観が形成されている。

長崎市の産業は造船業、以西底曳網、大中型まき網の拠点として発展した水産業、歴史的遺産と美しい自然に恵まれた国際観光都市として発展している。

また、長崎市内では、出島メッセ長崎の開業や長崎スタジアムの推進、西九州新幹線の開業など、100年に一度といわれるまちづくりが進められている。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等



## (2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

地域経済の中核を担う以西底曳網漁業者は、今後、漁業の生産コストの削減や、漁獲物の販路拡大等による魚価向上等に取り組み、漁業の継続によって水産物の安定供給体制を構築し、さらなる地域の活性化、地域経済の維持・発展に寄与する。

### 1 漁業収入向上のための取組

●セリでの販売の都合上、上場箱数が増加すると単価下落の要因となることから、輪番体制の徹底による漁獲物搬入の分散化により単価アップを図る \*継続事項

●所属船6隻の漁獲情報を共有することにより、漁模様が良いい漁場を主体に操業することで、全体の水揚増大を図る \*継続事項

●kg単価が高い活魚での搬入を増やすことで、水揚増大を図る \*継続事項

●長崎市がとり扱うふるさと納税返礼品等を介して、以西底曳網漁業で漁獲される活魚ウチワエビ、鮮魚セットを販売し直販による水揚増大を図る

●魚市場での荷揚時に、1隻分では規格が揃わず1箱とまらない半端物を、2隻分の半端物から選別して立替を行い、規格を揃えた商品として販売することで単価の上昇を図る

●現在総漁獲量の4割を超える主力魚種キダイの販路拡大と消費拡大並びに選別の厳密化、箱立て時水量の均一化等による鮮度保持、高付加価値化により単価アップを図る \*継続事項

●主要魚種キダイについて、消費地スーパー業者と販売数量拡大へ向けた商談を行い、需要の拡大により、魚価の安定化を図る \*継続事項

●主要魚種キダイについて、現在取引がある商社を介してキダイ加工業者の新規取引先を増やし需要の拡大により、魚価の安定化を図る \*継続事項

●主要魚種キダイについて、長崎さかなまつり等のイベント会場において調理方法の講習を行い、キダイの需要拡大により、魚価の安定化を図る \*継続事項

●主要魚種キダイについて、仲卸を通じ東南アジア諸国への複数の輸出ルート確立に向けて取り組み、需要の拡大により、魚価の安定化を図る \*継続事項

●地元金融機関の6次産業化ファンドを活用し、加工・販売業者との合弁事業の設立を目指すことにより、魚価の安定化を図る \*継続事項

●各漁船に温度計を設置して、鮮魚の鮮度保持に適正とされる漁船温度である3度～5度程度に保つよう管理することにより、鮮度保持を徹底して単価アップを図る

●混獲され商品とまらないカナガシラの小型魚等を、すり身加工業者とタイアップしてすり身原料にならないか検討し、製品化を目指す \*継続事項

●資源管理協定に伴う、5月～8月の間に19日以上のお休漁期間の設定、袋網の目合を66ミリ以上とする網目拡大、種苗放流の実施により資源管理を徹底する \*継続事項

### 2 漁業コスト削減のための取組

●船底清掃、プロペラの洗浄・研磨等による船底状態改善や、エンジン等機器類のメンテナンスを実施し、燃費向上と操業ロスの軽減を図る \*継続事項

●現在エソ、豆サバに限定して使用しているプラスチック製の再利用魚箱の使用対象魚種の拡大を、加工業者等と相談して魚種を増やし、魚箱コストの削減を図る \*継続事項

●毎航海終了時のブルワーク等のペンキ塗布の中止によるペンキ代等の削減 \*継続事項

●身網容積の減少とグラウンドの軽量化を図り、漁具抵抗を軽減することにより燃油使用量の削減を図る

### 3 漁村の活性化のための取組

●ホームページの拡充により、以西底曳網漁業の魅力を積極的にPRする

●新規就業者の確保、育成を推進するため、長崎県漁業担い手活動協議会に参画して、積極的に活動する

●喫緊の課題である後継者問題に対処するため、新規漁業就業者総合支援事業を活用した求人活動などを行い、担い手確保による漁業経営体の体力向上を図る \*継続事項

●海技免状取得のため、海技学院での講習期間等に支給される教育員手当と交通費の貸与を受けられる教育員制度(免状取得から3年以上継続勤務すれば、貸与分の返済を免除)を利用することにより後継者の育成を図る

(3) 資源管理に係る取組

以西底びき網漁業における資源管理計画並びに自主的管理措置の履行

●漁具の制限

袋網の目合については、66mm以上とする（公的規制54mm）。

●種苗放流の実施

令和元年度マダイ、令和2年度マダイ、令和3年度マダイ、令和4年度マダイ。いずれも男女群島周辺水域にて放流。

●休漁等の実施

5月～8月の間に、計19日以上休漁を行う。

一般財団法人日韓・日中協定対策漁業振興財団の助成を受け、海底清掃事業に従事する。

(4) 具体的な取組内容

1年目（令和6年度） 所得向上率（基準年比）11.3%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●漁業者は、所属船舶3組の水揚げ日が重ならないよう漁獲物を新長崎漁港に搬入する輪番体制を徹底し、漁獲物の搬入を分散化して、単価アップを図る。*継続事項</li> <li>●漁業者は、操業中における所属船舶3組の漁獲情報を共有することにより、効率的な漁撈活動を行い、水揚げ増大を図る。*継続事項</li> <li>●漁業者は、引き続き活魚槽を活用し活魚での取扱いを増やし漁業収入の増大を図る。*継続事項</li> <li>●漁業者は、ふるさと納税返礼品等を介した直販品の拡大を図る。</li> <li>●漁業者は、半端物の立替による単価の上昇を図る</li> <li>●漁業者及び協会は、以西底曳網漁業で漁獲される鮮魚の知名度アップに取り組む。</li> <li>●漁業者は、現在総漁獲量の4割を超える主力魚種、キダイの単価アップ及び販路拡大を図るため、次の事項に取り組む。*継続事項             <ul style="list-style-type: none"> <li>a.選別の厳密化、箱立て時水量の均一化等の徹底により単価アップを図り、キダイのC級品扱いの1割削減を目指す。</li> <li>b.消費地市場卸売業者（関西）の協力を得て、回転ずしのネタ採用、キダイを取扱う消費地スーパー業者と販売数量拡大へ向けた商談を行う。</li> <li>c.長崎魚市㈱、加工業者と連携し、新たな製品づくりや新たな取引先の開拓に取り組む。</li> <li>d.長崎魚まつり等のイベントで、キダイの鮮魚特売や、キダイを用いた料理教室を開催する等し、地元消費拡大に向けた取組みを行う。</li> <li>e.長崎魚市㈱等と協力し販路拡大策として、アルプス処理水の海洋放出によって輸出が制限されている中国に代わる東南アジアへの輸出先を模索する。</li> </ul> </li> <li>●漁業者及び協会は、地元金融機関の6次産業化ファンドを活用し、加工・販売業者との合弁事業の設立を目指す *継続事項</li> <li>●漁業者及び協会は、長崎蒲鉾水産加工業協同組合と協力し、小型のカナガシラ、ワキヤハタ、カイワリ等安価で取扱われる魚種の練り製品化に取り組む。*継続事項</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●漁業者は、船底、プロペラの洗浄・研磨等による船底状態改善や、エンジン等機器類のメンテナンスを行い、燃費向上と操業ロス削減を図る。（所属6隻）*継続事項</li> <li>●漁業者は、再利用魚箱（プラスチック製）使用魚種を増やし、魚箱コスト削減を図る。</li> <li>●漁業者は、毎航海終了時のブルワーク等のペンキ塗布を中止することにより、ペンキ代等の削減を図る。</li> <li>●漁業者は、オールマイティな仕様の漁具の小型化による燃油使用量の削減を検討する。</li> </ul>

漁村の活性化のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ホームページの拡充により、地域の漁業の魅力を積極的にPRする。</li> <li>●新規就業者の確保、育成を推進するため、長崎県漁業担い手活動協議会に参画して、積極的に活動する。</li> <li>●漁業者及び協会は、担い手確保の為に次の事項を実施する。*継続事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>a.毎年北九州市で開催される、九州、沖縄各県の水産系高等学校の教師との意見交換会に参画する。</li> <li>b.九州、沖縄各県の水産系高等学校を訪問の上、教師との意思疎通を図るとともに、生徒への漁業実態説明並びに教師、生徒の企業見学を実施する。</li> <li>c.九州、沖縄各県の水産系高等学校で開催される漁業ガイダンスに参画する。</li> <li>d.航海士、機関士、通信士免状取得のため、若手乗組員を教育機関に派遣する。</li> </ul> </li> <li>●教育員制度を利用して後継者の育成を行う。</li> </ul>
活用する支援措置等	<p>漁業経営セーフティネット構築事業(国)  新規漁業就業者総合支援事業(国)  浜の魅力発信・漁業就業促進総合支援事業(県)</p>

2年目（令和7年度） 所得向上率（基準年比）11.3%

漁業収入向上のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●漁業者は、所属船舶3組の水揚げ日が重ならないよう漁獲物を新長崎漁港に搬入する輪番体制を徹底し、漁獲物の搬入を分散化して、単価アップを図る。*継続事項</li> <li>●漁業者は、操業中における所属船舶3組の漁獲情報を共有することにより、効率的な漁撈活動を行い、水揚げ増大を図る。*継続事項</li> <li>●漁業者は、引き続き活魚槽を活用し活魚での取扱いを増やし漁業収入の増大を図る。*継続事項</li> <li>●漁業者は、ふるさと納税返礼品等を介した直販品の拡大を図る。</li> <li>●漁業者は、半端物の立替による単価の上昇を図る</li> <li>●漁業者及び協会は、以西底曳網漁業で漁獲される鮮魚の知名度アップに取り組む。</li> <li>●漁業者は、現在総漁獲量の4割を超える主力魚種、キダイの単価アップ及び販路拡大を図るため、次の事項に取り組む。*継続事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>a.選別の厳密化、箱立て時水量の均一化等の徹底により単価アップを図り、キダイのC級品扱いの1割削減を目指す。</li> <li>b.消費地市場卸売業者（関西）の協力を得て、回転ずしのネタ採用、キダイを取扱う消費地スーパー業者と販売数量拡大へ向けた商談を行う。</li> <li>c.長崎魚市(株)、加工業者と連携し、新たな製品づくりや新たな取引先の開拓に取り組む。</li> <li>d.長崎魚まつり等のイベントで、キダイの鮮魚特売や、キダイを用いた料理教室を開催する等し、地元消費拡大に向けた取組みを行う。</li> <li>e.長崎魚市(株)等と協力し販路拡大策として、アルプス処理水の海洋放出によって輸出が制限されている中国に代わる東南アジアへの輸出先を模索する。</li> </ul> </li> <li>●漁業者及び協会は、地元金融機関の6次産業化ファンドを活用し、加工・販売業者との合弁事業の設立を目指す *継続事項</li> <li>●漁業者及び協会は、長崎蒲鉾水産加工業協同組合と協力し、小型のカナガシラ、ワキヤハタ、カイワリ等安価で取扱われる魚種の練り製品化に取り組む。*継続事項</li> </ul>
漁業コスト削減のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●漁業者は、船底、プロペラの洗浄・研磨等による船底状態改善や、エンジン等機器類のメンテナンスを行い、燃費向上と操業ロス削減を図る。（所属6隻）*継続事項</li> <li>●漁業者は、再利用魚箱（プラスチック製）使用魚種を増やし、魚箱コス</li> </ul>

	<p>ト削減を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●漁業者は、毎航海終了時のブルワーク等のペンキ塗布を中止することにより、ペンキ代等の削減を図る。</li> <li>●漁業者はオールマイティな仕様の漁具の小型化による燃油使用量の削減を検討する。</li> </ul>
漁村の活性化のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ホームページの拡充により、地域の漁業の魅力を積極的にPRする。</li> <li>●新規就業者の確保、育成を推進するため、長崎県漁業担い手活動協議会に参画して、積極的に活動する。</li> <li>●漁業者及び協会は、担い手確保の為に次の事項を実施する。*継続事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>a.毎年北九州市で開催される、九州、沖縄各県の水産系高等学校の教師との意見交換会に参画する。</li> <li>b.九州、沖縄各県の水産系高等学校を訪問の上、教師との意思疎通を図るとともに、生徒への漁業実態説明並びに教師、生徒の企業見学を実施する。</li> <li>c.九州、沖縄各県の水産系高等学校で開催される漁業ガイダンスに参画する。</li> <li>d.航海士、機関士、通信士免状取得のため、若手乗組員を教育機関に派遣する。</li> </ul> </li> <li>●教育員制度を利用して後継者の育成を行う。</li> </ul>
活用する支援措置等	<p>漁業経営セーフティネット構築事業(国)  新規漁業就業者総合支援事業(国)  浜の魅力発信・漁業就業促進総合支援事業(県)</p>

3年目（令和8年度） 所得向上率（基準年比）11.4%

漁業収入向上のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●漁業者は、所属船舶3組の水揚げ日が重ならないよう漁獲物を新長崎漁港に搬入する輪番体制を徹底し、漁獲物の搬入を分散化して、単価アップを図る。*継続事項</li> <li>●漁業者は、操業中における所属船舶3組の漁獲情報を共有することにより、効率的な漁撈活動を行い、水揚げ増大を図る。*継続事項</li> <li>●漁業者は、引き続き活魚槽を活用し活魚での取扱いを増やし漁業収入の増大を図る。*継続事項</li> <li>●漁業者は、ふるさと納税返礼品等を介した直販品の拡大を図る。</li> <li>●漁業者は、半端物の立替による単価の上昇を図る</li> <li>●漁業者及び協会は、以西底曳網漁業で漁獲される鮮魚の知名度アップに取り組む。</li> <li>●漁業者は、現在総漁獲量の4割を超える主力魚種、キダイの単価アップ及び販路拡大を図るため、次の事項に取り組む。*継続事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>a.選別の厳密化、箱立て時水量の均一化等の徹底により単価アップを図り、キダイのC級品扱いの1割削減を目指す。</li> <li>b.消費地市場卸売業者（関西）の協力を得て、回転ずしのネタ採用、キダイを取扱う消費地スーパー業者と販売数量拡大へ向けた商談を行う。</li> <li>c.長崎魚市(株)、加工業者と連携し、新たな製品づくりや新たな取引先の開拓に取り組む。</li> <li>d.長崎魚まつり等のイベントで、キダイの鮮魚特売や、キダイを用いた料理教室を開催する等し、地元消費拡大に向けた取組みを行う。</li> <li>e.長崎魚市(株)等と協力し販路拡大策として、アルプス処理水の海洋放出によって輸出が制限されている中国に代わる東南アジアへの輸出先を模索する。</li> </ul> </li> <li>●漁業者及び協会は、地元金融機関の6次産業化ファンドを活用し、加工・販売業者との合弁事業の設立を目指す *継続事項</li> <li>●漁業者及び協会は、長崎蒲鉾水産加工業協同組合と協力し、小型のカナガシラ、ワキヤハタ、カイワリ等安価で取扱われる魚種の練り製品化に</li> </ul>
--------------	--

	取組む。*継続事項
漁業コスト削減のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●漁業者は、船底、プロペラの洗浄・研磨等による船底状態改善や、エンジン等機器類のメンテナンスを行い、燃費向上と操業ロス削減を図る。(所属6隻)*継続事項</li> <li>●漁業者は、再利用魚箱(プラスチック製)使用魚種を増やし、魚箱コスト削減を図る。</li> <li>●漁業者は、毎航海終了時のブルワーク等のペンキ塗布を中止することにより、ペンキ代等の削減を図る。</li> <li>●漁業者はオールマイティな仕様の漁具の小型化による燃油使用量の削減を検討する。</li> </ul>
漁村の活性化のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ホームページの拡充により、地域の漁業の魅力を積極的にPRする。</li> <li>●新規就業者の確保、育成を推進するため、長崎県漁業担い手活動協議会に参画して、積極的に活動する。</li> <li>●漁業者及び協会は、担い手確保の為に次の事項を実施する。*継続事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>a.毎年北九州市で開催される、九州、沖縄各県の水産系高等学校の教師との意見交換会に参画する。</li> <li>b.九州、沖縄各県の水産系高等学校を訪問の上、教師との意思疎通を図るとともに、生徒への漁業実態説明並びに教師、生徒の企業見学を実施する。</li> <li>c.九州、沖縄各県の水産系高等学校で開催される漁業ガイダンスに参画する。</li> <li>d.航海士、機関士、通信士免状取得のため、若手乗組員を教育機関に派遣する。</li> </ul> </li> <li>●教育員制度を利用して後継者の育成を行う。</li> </ul>
活用する支援措置等	<p>漁業経営セーフティネット構築事業(国)</p> <p>新規漁業就業者総合支援事業(国)</p> <p>浜の魅力発信・漁業就業促進総合支援事業(県)</p>

4年目(令和9年度) 所得向上率(基準年比) 11.4%

漁業収入向上のための取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>●漁業者は、所属船舶3組の水揚げ日が重ならないよう漁獲物を新長崎漁港に搬入する輪番体制を徹底し、漁獲物の搬入を分散化して、単価アップを図る。*継続事項</li> <li>●漁業者は、操業中における所属船舶3組の漁獲情報を共有することにより、効率的な漁撈活動を行い、水揚げ増大を図る。*継続事項</li> <li>●漁業者は、引き続き活魚槽を活用し活魚での取扱いを増やし漁業収入の増大を図る。*継続事項</li> <li>●漁業者は、ふるさと納税返礼品等を介した直販品の拡大を図る。</li> <li>●漁業者は、半端物の立替による単価の上昇を図る</li> <li>●漁業者及び協会は、以西底曳網漁業で漁獲される鮮魚の知名度アップに取り組む。</li> <li>●漁業者は、現在総漁獲量の4割を超える主力魚種、キダイの単価アップ及び販路拡大を図るため、次の事項に取り組む。*継続事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>a.選別の厳密化、箱立て時水量の均一化等の徹底により単価アップを図り、キダイのC級品扱いの1割削減を目指す。</li> <li>b.消費地市場卸売業者(関西)の協力を得て、回転ずしのネタ採用、キダイを取扱う消費地スーパー業者と販売数量拡大へ向けた商談を行う。</li> <li>c.長崎魚市(株)、加工業者と連携し、新たな製品づくりや新たな取引先の開拓に取り組む。</li> <li>d.長崎魚まつり等のイベントで、キダイの鮮魚特売や、キダイを用いた料理教室を開催する等し、地元消費拡大に向けた取組みを行う。</li> </ul> </li> </ul>
--------------	---

	<p>e.長崎魚市(株)等と協力し販路拡大策として、アルプス処理水の海洋放出によって輸出が制限されている中国に代わる東南アジアへの輸出先を模索する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●漁業者及び協会は、地元金融機関の6次産業化ファンドを活用し、加工・販売業者との合弁事業の設立を目指す *継続事項</li> <li>●漁業者及び協会は、長崎蒲鉾水産加工業協同組合と協力し、小型のカナガシラ、ワキヤハタ、カイワリ等安価で取扱われる魚種の練り製品化に取り組む。*継続事項</li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●漁業者は、船底、プロペラの洗浄・研磨等による船底状態改善や、エンジン等機器類のメンテナンスを行い、燃費向上と操業ロス削減を図る。(所属6隻) *継続事項</li> <li>●漁業者は、再利用魚箱(プラスチック製)使用魚種を増やし、魚箱コスト削減を図る。</li> <li>●漁業者は、毎航海終了時のブルワーク等のペンキ塗布を中止することにより、ペンキ代等の削減を図る。</li> <li>●漁業者はオールマイティな仕様の漁具の小型化による燃油使用量の削減を検討する。</li> </ul>
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ホームページの拡充により、地域の漁業の魅力を積極的にPRする。</li> <li>●新規就業者の確保、育成を推進するため、長崎県漁業担い手活動協議会に参画して、積極的に活動する。</li> <li>●漁業者及び協会は、担い手確保の為に次の事項を実施する。*継続事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>a.毎年北九州市で開催される、九州、沖縄各県の水産系高等学校の教師との意見交換会に参画する。</li> <li>b.九州、沖縄各県の水産系高等学校を訪問の上、教師との意思疎通を図るとともに、生徒への漁業実態説明並びに教師、生徒の企業見学を実施する。</li> <li>c.九州、沖縄各県の水産系高等学校で開催される漁業ガイダンスに参画する。</li> <li>d.航海士、機関士、通信士免状取得のため、若手乗組員を教育機関に派遣する。</li> </ul> </li> <li>●教育員制度を利用して後継者の育成を行う。</li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティネット構築事業(国)  新規漁業就業者総合支援事業(国)  浜の魅力発信・漁業就業促進総合支援事業(県)</p>

5年目(令和10年度) 所得向上率(基準年比) 12.3%

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●漁業者は、所属船舶3組の水揚げ日が重ならないよう漁獲物を新長崎漁港に搬入する輪番体制を徹底し、漁獲物の搬入を分散化して、単価アップを図る。*継続事項</li> <li>●漁業者は、操業中における所属船舶3組の漁獲情報を共有することにより、効率的な漁撈活動を行い、水揚げ増大を図る。*継続事項</li> <li>●漁業者は、引き続き活魚槽を活用し活魚での取扱いを増やし漁業収入の増大を図る。*継続事項</li> <li>●漁業者は、ふるさと納税返礼品等を介した直販品の拡大を図る。</li> <li>●漁業者は、半端物の立替による単価の上昇を図る</li> <li>●漁業者及び協会は、以西底曳網漁業で漁獲される鮮魚の知名度アップに取り組む。</li> <li>●漁業者は、現在総漁獲量の4割を超える主力魚種、キダイの単価アップ及び販路拡大を図るため、次の事項に取り組む。*継続事項 <ul style="list-style-type: none"> <li>a.選別の厳密化、箱立て時氷量の均一化等の徹底により単価アップを図り、キダイのC級品扱いの1割削減を目指す。</li> <li>b.消費地市場卸売業者(関西)の協力を得て、回転ずしのネタ採用、キダイを取扱う消費地スーパー業者と販売数量拡大へ向けた商談を行</li> </ul> </li> </ul>
---------------------	--

	<p>う。</p> <p>c.長崎魚市(株)、加工業者と連携し、新たな製品づくりや新たな取引先の開拓に取り組む。</p> <p>d.長崎魚まつり等のイベントで、キダイの鮮魚特売や、キダイを用いた料理教室を開催する等し、地元消費拡大に向けた取組みを行う。</p> <p>e.長崎魚市(株)等と協力し販路拡大策として、アルプス処理水の海洋放出によって輸出が制限されている中国に代わる東南アジアへの輸出先として、ブルネイ、マレーシア、インドネシアへサンプル商品の出荷を行い、需要を模索する。</p> <p>●漁業者及び協会は、地元金融機関の6次産業化ファンドを活用し、加工・販売業者との合弁事業の設立を目指す *継続事項</p> <p>●漁業者及び協会は、長崎蒲鉾水産加工業協同組合と協力し、小型のカナガシラ、ワキヤハタ、カイワリ等安価で取扱われる魚種の練り製品化に取り組む。*継続事項</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>●漁業者は、船底、プロペラの洗浄・研磨等による船底状態改善や、エンジン等機器類のメンテナンスを行い、燃費向上と操業ロス削減を図る。(所属6隻) *継続事項</p> <p>●漁業者は、再利用魚箱(プラスチック製)使用魚種を増やし、魚箱コスト削減を図る。</p> <p>●漁業者は、毎航海終了時のブルワーク等のペンキ塗布を中止することにより、ペンキ代等の削減を図る。</p> <p>●漁業者はオールマイティな仕様の漁具の小型化による燃油使用量の削減を図る。(所属2隻)</p>
<p>漁村の活性化のための取組</p>	<p>●ホームページの拡充により、地域の漁業の魅力を積極的にPRする。</p> <p>●新規就業者の確保、育成を推進するため、長崎県漁業担い手活動協議会に参画して、積極的に活動する。</p> <p>●漁業者及び協会は、担い手確保の為に次の事項を実施する。*継続事項</p> <p>a.毎年北九州市で開催される、九州、沖縄各県の水産系高等学校の教師との意見交換会に参画する。</p> <p>b.九州、沖縄各県の水産系高等学校を訪問の上、教師との意思疎通を図るとともに、生徒への漁業実態説明並びに教師、生徒の企業見学を実施する。</p> <p>c.九州、沖縄各県の水産系高等学校で開催される漁業ガイダンスに参画する。</p> <p>d.航海士、機関士、通信士免状取得のため、若手乗組員を教育機関に派遣する。</p> <p>●教育員制度を利用して後継者の育成を行う。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティネット構築事業(国)</p> <p>新規漁業就業者総合支援事業(国)</p> <p>浜の魅力発信・漁業就業促進総合支援事業(県)</p>

(5) 関係機関との連携

漁業の継続による水産物の安定供給体制の構築及びさらなる地域の活性化、地域経済の維持・発展に寄与するため、以西底曳網漁業者は国内の関係する魚市場、地元加工業者、主要魚種であるキダイを取り扱う商社との連携により、漁獲物の単価上昇を図るとともに、水産系列学校との連携による後継者確保に努める。

(6) 取組の評価・分析の方法・実施体制

浜プランの取組の成果を評価・分析するため、委員会は外部専門家1名を委嘱し、対象漁業者の毎年度末（6月）以後3か月以内に開催する会員会議において、委員会事務局が策定した自己評価案に外部専門家による評価意見を付した浜プラン評価案を審議・決定し、次年度の取組の改善等につなげる。

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得の向上12.3%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

(3) 所得目標以外の成果目標

所得目標の構成要素

キダイのC級品の削減	基準年	平成30年度 ～令和4年度 5中3平均：	キダイの箱立商品に 占めるC級品の割合	3.5 (%)
	目標年	令和10年度：	キダイの箱立商品に 占めるC級品の割合	2.8 (%)

漁村の活性化の取組

新規就業者数の確保	基準年	令和2年度 ～令和4年度 平均：	新規就業者数	4 (人)
	目標年	令和10年度：	新規就業者数	5 (人)

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

以西底曳網漁業の主要魚種であるキダイは、長崎魚市でセリにかける場合、仲卸業者が買いやすいように魚体の状態、規格の揃い具合等をみてA級品、B級品、C級品の3段階に分けてセリを実施しており、船上での箱立時の選別の強化、鮮度保持などを積極的に指導することにより、直近5中3年平均の数値からC級品の1割削減を目指す。

また、喫緊の課題である後継者確保の観点から、水産系列学校への訪問や職場見学の実施、水産業就業者支援フェア等に積極的に参加して、新規就業者数の確保増大を図る。

## 5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティネット構築事業(国) (緊急特別対策を含む)	燃油高騰による燃油費増に対応する施策を活用することにより、漁業経営の安定を図る。
新規漁業就業者総合支援事業(国)	後継者問題を緩和するため、新規漁業就業者確保を積極的に進め、漁業経営の安定を図る。
アルプス処理水の海洋放出に伴う影響を乗り越えるための漁業者支援事業(国)	アルプス処理水の海洋放出に伴う中国の輸入規制による主要魚種キダイの単価下落に伴い、この支援事業を活用して漁業経営の安定を図る。
漁業と漁村を支える人づくり事業(県)	後継者問題を緩和するため、新規漁業就業者確保を積極的に進め、漁業経営の安定を図る。